

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

能ヶ谷西緑地だより

2022年 9月 1 日号 271 号 能ヶ谷西緑地・樹の会

【9月の予定】



◆9月10日（土）（雨天翌日）

・花広場 整備

◆9月24日（土）（雨天翌日）

・花広場 整備

* 9:00 現地集合（9:00～11:30）

◆9月3日（土） 10:00～12:00

やまゆ連・手作りカフェー

平和台集会所

（コロナ状況によっては中止の場合もあります）

問合せ：伊藤（735-8623）

どなたでも参加自由です。

作業には汚れても良い 服装でおいでください。

【緑地に咲く】ヘクソカズラ（屁糞葛）



アカネ科ヘクソカズラ属の蔓性多年草。

葉をつぶすと強い悪臭を放つことから残念な名前をつけられたようです。日本最古の和歌集「万葉集」にも「尿葛（くそかずら）」の名で詠まれています。

英語では、スカンク・ヴァイン（スカンクの蔓の意）と呼ばれています。（長谷部）

※※※※※※

緑地だより

※※※※※※

7月9日（土）曇り 参加者 10名

作業の前に、新たにカシナガ虫の被害でクヌギ、コナラが3本黄変した件を報告しました。そのうち1本は生活道の近くのコナラです。直径が50cm内外です。7月の猛暑が原因の一つではないかと話をしました。

今日の作業は、竹林の新しい芽を処理する作業と、前回同様花広場の草刈りです。竹林のほうは女性達が行い、その後花広場へ移りました。大部分は鎌による作業でした。雑草もたくましく、草の中に石もたくさんあり、「カチン、カチン」と鎌が悲鳴をあげていました。鎌での作業は大変ですが、作業が終わり広場を見渡すと、見違えるほどきれいになりました。作業後軽くストレッチを行い、今度の暑気払いの話をしました。（伊藤）

7月23日（土）晴 参加者12名

酷暑の中、参加者多数。前回下草刈りの続き、今日は中央広場を中心に草刈り。蔓系の植物はこの時期ぐん



ヤマユリ

ぐん伸びて電動草刈り機にとっては厄介。中央広場の片隅の「ホトトギス」が周りの草におおわれちゃってしまっていたので、駆逐した竹を使った柵で囲いを作り周りの下草刈りをする。

一休みしていたところへ、男の子とお母さんが「タマムシ」の餌になる「エノキ」を探しに緑地へ。

メンバーは早速エノキを取りに行き男の子へ。タマムシ、元気に育つといいですね。



タマムシ

この便りを読んだみなさん、是非お子さん、お孫さんと一緒に緑地に遊びに来てください。

（片野）

8月27日（土）晴 参加者 7名

夏の間雑草が伸び放題なので、臨時作業を行い、桜広場の草刈りをしました。クズが広場を覆っていて、雑草の生命力を感じました。

（小川）

【やまゆ連・手作りカフェ】

手仕事

7月2日（土） 平和台集会所

短い梅雨が明けた後、猛暑日が続いています。2日も35度超えの予報です。さて何人の参加かな・・・と、思ったら、5名が集まりました。

前回採ったカラムシの繊維を撚って、紐作りに挑戦する人、過去に途中止めにしたカラムシ繊維のコースターを完成させる人、少し上級の細い紐作りに励む人、柿渋で染めた布を裂いて、裂き織り用テープを作る人など、それぞれやりたい仕事を楽しみました。

前回まではコロナもあって、お喋りは控えめにしていたのですが、今日は、少し離れて座り、手仕事しながら話題が広がりました。

これからも元気で自立して暮らしたいねと、健康維持の運動や栄養の取り方の情報交換。

昭和の時代の、炭や練炭の話、薪で焚いた風呂の記憶、絞り機をついた洗濯機、くみ取り式から水洗トイレの変遷、それぞれの故郷での思い出話が弾みました。

下関出身のFさんの、子どもの頃関門トンネルを歩いて通り、対岸の門司のプールに通った話にはびっくりしました。

手仕事の緩やかな時間は、子ども時代の記憶も蘇らせて、それぞれの体験を共有する楽しさを味わうことができました。

（桑原）



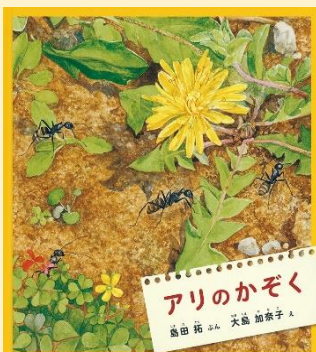
段ボール円盤を使ったカラムシコースター作り

【緑地を楽しむ本】

『アリのかぞく』

島田 拓・ぶん 大島 加奈子・え

福音館書店



いくつになっても、アリが歩いていると、ついしゃがんで見入ってしまいます。行列を作って何かを運んでいようものなら・・・もうたまりません。

しかし、女王アリが最初は一匹でこんなにがんばっているとは知りませ

んでした。一ヶ月半の間、何も食わずに卵を産み、幼虫の世話をし、さなぎになるためのまゆを作りやすいように土をうつつらとかけてあげたり、まゆも破いてあげる。そうして初めて生まれた「はたらきアリ」が持ち帰ったもので、

やっと食事ができるとは。卵を産み続ける女王アリの生命力に驚きますし、20年も生きるということも驚きでした。

アリの生活がていねいに描かれていて、これからの季節、アリを見る目がちょっと変わりそうです。

この本には書かれていませんが、巣の中のアリの何割かはボーッと休んでいるとか、そんな点に共感するのは大人だからでしょうか。

（遠藤）

【緑地の樹】

シュロ (棕櫚)

プロフィール: ヤシ科シュロ属 の常緑高木

暖かい地方の木という印象があるけれど、今ではどこにでも生えています。地球温暖化で冬の寒さが厳しくなくなり、屋外でも過ごせるようになったのです。緑地でも入り口から始まって斜面にいっぱい生えています。

大きくなると幹回りに繊維が密集して、切り倒そうとしてもものこぎりが壊れてしまいます。

ちょっとうれしくない木なのですが、幹の繊維でたわしを作ったり、葉を使って籠や敷物を作ったりできます。もっと利用すればいいのですね。



シュロの葉の籠

(小川)

キノコたち



緑地ではまだ見ていませんが、カエントケが市内で見つかっています。

猛毒・注意!

(町田市HPより)

- ◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。怪我しないよう十分に気をつけて楽しんでください。
- ◆ 「緑地だより」編集：小川 TEL/FAX：796-1801 (ご意見がありましたら小川までお寄せください)

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP (毎月末に更新)
<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/>
配信希望の方は、小川まで(ogamariko@gmail.com)